


## e) 道後温泉 歴史漂う景観まちづくり

## 愛媛県松山市： 道後温泉 歴史漂う景観まちづくり

**推進主体**

**目標**



**道後温泉歴史漂う景観まちづくり推進特別委員会**

- 来訪者数の増加、滞在時間の延長
- 良好な景観形成と保全
- 道後温泉本館周辺の景観の調和
- 歴史を感じさせる施設の検証・復元の推進

0

### ■ 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会の取組み実績

04. 08	道後温泉誇れるまちづくり推進協議会発足
13. 11	まちづくりの実態調査 「ナイトウォーク、他テーマ別の踏査」実施
14. 06	道後ランドデザイン21発表 「DO! GO! 21～クラシック&モダン・道後をめざして～」
16. 04	「道後のみち再生プロジェクト」企画書(市へ提出)
17. 10	道後温泉カジュアルフォトコンテスト
17. 11	道後村めぐりワークショップ実施
17. 12	景観まちづくり宣言づくり学習会開催
18. 01	道後温泉景観まちづくりフォーラム開催
18. 06	道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言『道後百年の景』 道後地区ファサード整備研修会開催 景観配慮活動に対する顕彰(屋外広告物自主撤去3件)
18. 09	本館周辺・道後温泉駅ファサード整備関係者交渉開始
19. 06	道後温泉周辺ファサード整備フォーラム開催

1

## 道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言 『道後 百年の“景”』

道後温泉本館を中心とする道後温泉地域の歴史的文化的空間は、松山市民の全国に誇りうるかけがえのない共通の財産です。

私たち地域の住民及び事業者は、先人の志を受け継ぎ更に発展させ、道後温泉が百年後にも誇れる地域のシンボルとなるよう、景観の修景、伝統の奥行きや深みの再現、そして新しい価値の創造が必要と考えます。

このため、美しく魅力的で活力のある都市型温泉郷空間の実現を目指し、歴史漂う景観づくりに取り組むことを宣言します。

2

### 屋外広告物の自主撤去

(1) 奥道後 アーチ広告



The image shows a before-and-after comparison of a street scene. The top-left photo shows a building with a large archway advertisement over the entrance, circled in yellow. A pink arrow points to the bottom-right photo, which shows the same building and street but with the archway advertisement removed. A small number '3' is visible at the bottom center of the image area.

3

### 屋外広告物の自主撤去

#### (2) 愛媛銀行 屋上広告



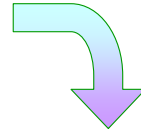
### 屋外広告物の自主撤去

#### (3) パチンコ丸の内 屋上広告



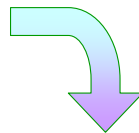


歩行者優先空間創出（道後温泉本館周辺）



6

歩行者優先空間創出（道後温泉本館周辺）



7

## ファサード整備の推進



8

## ファサード整備の推進

### (5) 整備事例



## 課題と目標

### 課題

“良いまち”になるほどマンションが出来易くなる

#### 【問題事例】



10

### 看板(屋外広告物)等の問題

#### 【問題事例①】





【問題事例②】



■ その他の課題

- 町並みにおける混在
- 駐車場、駐輪場、ごみ問題
- 協議会の活動資金
- 道後温泉本館改修工事に向けた対策
- 歴史的温泉施設群の建設のための湯量及び費用



### ■ 今後の目標【道後百年の“景”の具体化】

- 「日常の人の営みを魅力化することが、人の心を動かす魅力的な景観づくりである」ことを認識し、おもてなしの“気持ち”を“かたち”に表現する。
- 道後温泉地区における良好な景観の形成とその保全を図るため、行政との協働により法的制度の導入を図る。
- 道後温泉本館周辺及び駅前地区の建物の外観や屋外広告物を「本館」と調和したデザインにする「ファサード整備」を地域ぐるみで推進する。
- 道後は温泉地であることの原点に立ち返り、事業者が主体となってお客様満足度を高め、滞在時間の延長と交流人口の増大を図る。

14

### ■ 今後の目標【道後百年の“景”の具体化】

- 道後温泉の景観に、歴史文化の豊かさを活かし、次代に引継いでいくための象徴及び核としての温泉施設群の検証・復元を推進するとともに、100年後にも耐えうる“温泉地力”をつけるよう、まさに「坂の上の雲」の志を持ち続ける。

15